



第2回「福島は今、原発は未来への負の遺産」

2015年6月13日(土)の第2回は、大阪歴史博物館第一研修室で、原子力資料情報室共同代表、事務局長の伴 英幸さんと、福島からの避難者で原発賠償関西訴訟原告団代表の森松明希子さんの講演でした。



伴さんは、「福島第一原発の現状」として、汚染水対策、廃炉へのロードマップ、被ばくと労働者確保、長引く避難、除染作業、被ばくと健康影響といった諸問題について話されました。ふだんの報道では分からないことも多く意義深いものでした。

いものでした。



森松さんは、「原発被災者の今」として、「夫婦と子供2人で郡山に住んでいて被災した。30km圏内の外であったため、避難命令は免れたが、子供をより安全な環境で育てたいと思い、夫を残して大阪に母子避難をした。帰還を願いつつも、帰れないでいる。」と話されました。

報道される避難者数に含まれない、隠れ避難者も多いとお聞きし、実態把握の難しさと厳しい現実を知らされました。

報道される避難者数に含まれない、隠れ避難者も多いとお聞きし、実態把握の難しさと厳しい現実を知らされました。

第3回「私たちはクリーンなエネルギーを選ぶ」

2015年7月13日(月)の第3回は、大阪歴史博物館第一研修室で、CASA専務理事の早川光俊と、CASA理事で島根大学法文学部教授の上園昌武さんの講演でした。

早川は「日本のエネルギーを考えよう」と題して、
・何故、今、エネルギーミックスか



- ・長期エネルギー需給見通し(エネルギーミックス)とその問題点
- ・IPCC第5次評価報告書の警告
- ・COP21(2015年合意)の重要性
- ・日本の約束草案(2030年の削減目標)の問題点について話しました。

上園さんは「私たちが描く原発ゼロ、自然エネルギー中心の社会～CASA2030モデルの試算結果より～」と題して、

- ・原発回帰の「長期エネルギー需給見通し」(2015年)
- ・CASA2030モデルのシミュレーション結果
- ・長期エネルギー需給見通しとの比較
- ・CASA対策ケースの経済波及効果について話されました。

出力調整が難しいとされている原発の出力も調整可能で、もはやベースロード電源という考え方は世界の非常識になっている、という話が印象的でした。

山田 直樹 (CASAボランティア)

